

平成28年度ふくしま女性活躍応援会議議事概要

日時 平成28年7月26日(火)

13:30～14:00

場所 福島県男女共生センター 第2研修室

◎出席者 19名
別紙のとおり

◎欠席者 なし

◎事務局、オブザーバー
別紙のとおり

1 開会

- 2 ふくしま女性活躍応援会議の設置について
(尾形生活環境部長から、資料Aに基づき、会議の設置目的等を説明。)
(意見、質問等なく、出席者から異議なしの声をもって会議設立。)

3 知事あいさつ

- 4 議事
設置要綱により、内堀知事が議事進行。

議事(1) ふくしま女性活躍応援宣言について

(角田男女共生課長から、資料1に基づき、ふくしま女性活躍応援宣言の内容を説明。)
(意見、質問等なく、出席者の拍手をもって資料1のとおり宣言採択。)

議事(2) 本会議における今後の取組について

(角田男女共生課長から、資料2に基づき、今後の取組の進め方について説明。)
(議事(2)及び会議全体について、以下のとおり意見交換を行った後、出席者の拍手をもって資料2のとおり今後の取組方針を決定。)

(福島県中小企業団体中央会 内池会長)

- 日本中で少子高齢化が進む中、高齢者と女性の活躍は大変重要。
- とりわけ福島では、震災、原発からの復興という意味で、女性の活躍は喫緊の課題。
- 人手不足が大変深刻な問題である我々中小企業事業者にとっても、最大の関心事である。
- 女性活躍推進法について、中小企業ではまだまだ理解不足という状況。
- 福島県中小企業団体中央会としては、県内中小企業の連携支援を専門とする立場から、女性の人材の活用、働きやすい職場づくりを目指している。

(福島県農業協同組合中央会 大橋会長)

- 本会議は、女性の活躍にとって無くてはならない会と認識している。
- 農協としては、今までの17JAを5JAに集約したところであり、女性の理事への登用として、5JAのうち女性理事が22名という形で発足した。
- 女性登用については、正組合員は25%以上、総代は10%以上、理事は2名以上という目標のなかで、女性も運営に参画している。
- 本会議の開催は大変良い機会であり、さらなる女性の登用を進めていきたい。

(福島県女性団体連絡協議会 鈴木会長)

- 県内を代表する方々が集まって、このような会議が開催されるような時代が来るとは思ってもいなかった。
- 女性はいろいろな事情で、一歩踏み出そうと思っても、つい引っ込み思案になることがあるが、そのときに、皆様からの一声や、少し肩を押していただくことで、活躍できる人が大勢いる。
- ぜひ、やる気のある女性たちを応援していただきたい。

(日本労働組合総連合会福島県連合会 今泉会長)

- 南相馬市長と懇談したときの話を少し紹介しながら、我々が取り組んでいることを簡単に紹介したい。
- 南相馬市は被災地であり、特に若い女性の方々が多く避難しており、人材の確保が非常に困難。
- 働ける環境づくりのため、待機児童の問題を解消しなければならない。
- 就労環境が整い仕事に就いた後も、子育て支援策、保護者の学校関係で関わってくる休みの問題、短時間勤務等、福利厚生制度を会社の方で整えてもらうことが大事。
- これは南相馬市だけではなく、県内自治体、地域に共通する課題だと思うので、女性が働ける環境の確保について、我々としても出来る限り手助けしたい。
- 最終的には、男性の理解と協力、さらには会社の諸制度といったものを、今の時代に合致したものにしていく努力が必要。

(アカデミア・コンソーシアムふくしま 岡副理事長)

- 私からは具体的な提案をしたい。
- 現在、日本ではプログラマーが圧倒的に不足しているが、プログラマーは女性、家庭の主婦にできる仕事なので、プログラマーの養成を、県の力でやっていただきたい。
- プログラマーは給料が高く、自宅のできる仕事なので保育所がいない。女性は言葉の使い方が圧倒的に男性より上手いのでプログラミングの適性が高い。こういう性質上、女性に非常に向いている。
- プログラミングの講師は定年退職された元ソフト会社の方とか、あるいは大学の教員を雇うようにし、参加者を集めるため、講習を県が無償でやっていただきたい。

(福島県建設産業団体連合会 高木副会長)

- 我々の業界でも非常に人手不足に陥っており、女性の労働力を強く求めている。
- 非常に細やかな作業等、女性に非常に向いている仕事もあるし、土木建築の分野では、全国的には活躍されている女性もいるが、県内では寿退社が結構多い。

- 環境整備の不足、夫の理解、待機児童等が原因と考える。
- 業界としても、男社会の現場なので、例えばトイレが男子用しかない等の問題があり、環境を整備することは必要と考えている。
- 監理技術者という職に就いた際、法的な現場への専任義務が発生し、学校行事や生理休暇等で少し現場を離れることが不可能という問題がある。
- トップの意識改革が重要だと思っているので、今年度は福島県男女共生センターと連携して事業を実施する予定。

(福島労働局 島浦局長)

- 福島労働局としても、女性の活躍推進や働き方改革については最重点としている。
- 6月から7月の2ヶ月間、県と連携して県内全域の事業主を30社程度訪問したところ、全国の同じような業種や規模に応じた女性活躍推進の具体例を情報提供して欲しいとの要望が強かった。
- 会議終了後も、県、市町村、関係団体、今日お集まりの皆さんと深く連携し、具体的な取組の実効性をさらに高めていきたい。

(福島県社会福祉協議会 鈴木常勤副会長)

- 福祉分野では多くの女性が活躍しているが、ワーク・ライフ・バランスの推進として、ますます働きやすい職場というものを作っていかなければならない。
- 宣言文も含めて、本会議内では男女共同参画という文言が出てきていないが、そこはもう当然の考え方だとの認識で、女性活躍推進を発信していきたい。

(福島県商工会議所連合会 和合理事)

- 商工会議所では、若者女性活躍推進ということで、働きやすい環境づくりのマニュアル作成等いろいろな取り組みをしている。
- トップの意識改革や、女性の起業支援については特に力を入れていきたい。

5 閉会